

# 科学技術イノベーション政策推進専門調査会 が取り組むフォローアップについて(案)

平成25年1月22日

科学技術イノベーション政策推進懇談会

## 1. フォローアップの位置付け

- 第4期基本計画の成果についての国民に対する説明責任を果たすとともに、残された課題を分析し、次期計画の策定に結び付ける。
- 個別施策（基本計画の推進方策レベル）のPDCAは各府省が行い、総合科学技術会議（科学技術イノベーション政策推進専門調査会）は一段上位のレベルで俯瞰し評価する。
- エビデンスに基づいた評価をするべく、可能な限り評価指標を設定する。指標は、イノベーション戦略の評価について先進的な取組をしている諸外国（EUやOECD）も参考に、基本的に国際比較可能なものを設定する。

## 2. フォローアップの考え方(1 / 3)

第3期基本計画フォローアップでの反省点を踏まえ、第4期基本計画フォローアップを設計する。

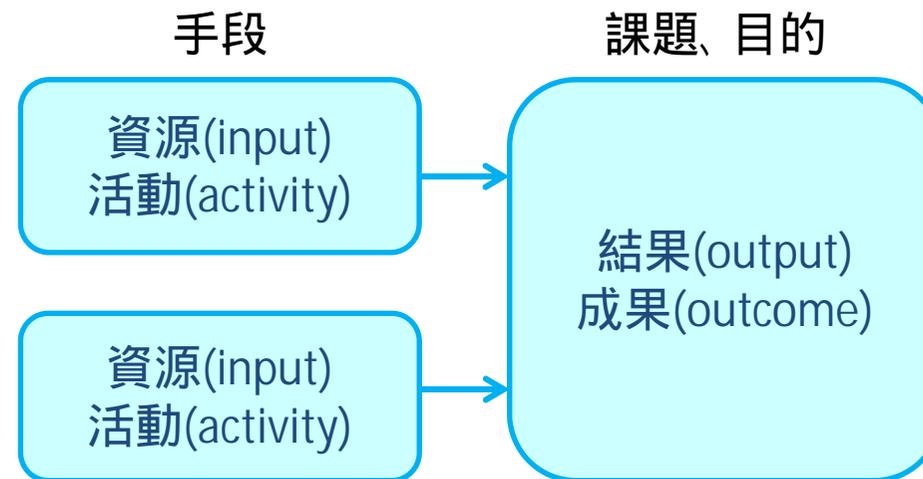
### <第3期基本計画での反省点>

- ・ 基本計画の記載内容（個別施策レベル）から指標候補を抽出したが、大量なデータの羅列であり、基本計画の進捗を論理的・体系的に理解し難いという問題があった。
- ・ 基本計画に沿って推進した関係府省の主な取組や、分野別推進戦略に掲げた研究開発課題の成果については取りまとめたが、科学技術政策を推進するプロセス（制度、体制、運営）面の分析が不十分であった。

## 2. フォローアップの考え方(2 / 3)

### < 第4期基本計画での対応(案) >

- ①基本計画では、目標と手段の関係がわかりにくいところ、手段が目標とされてるところもありうることから、達成すべき課題や目標とこれらに関連する手段を整理し、「基本計画をこのように評価する」ということを作成する。



- ②上記に基づき、評価に必要なエビデンスとなる代表的指標を設定する。指標は、入手可能性、継続性、国際的な比較可能性を勘案する。

## 2. フォローアップの考え方(3 / 3)

- ③科学技術イノベーション政策を推進するプロセス（制度、体制、運営）、例えば、戦略協議会の創設、政策評価体制の強化、等については定量的な評価に馴染まない。定性的な評価方法を検討する。
- ④本年度中に上記①～③について整理し、平成25年度に調査分析※の上、評価を行う。

※内閣府において委託調査を実施を検討。